

## 教育支援

2021年2月中旬より、リエンボン小学校での英語学習支援を開始しました。小学校高学年クラス、中学生クラスの二部構成とし、小学校高学年クラスはリエンボン小学校の生徒たち約50名、中学生クラスは周辺の3つの村からも生徒が参加し、約90名が学んでいます。講師を務めるのはリエンボン小学校と隣村の小学校教師3名です。小学校の校舎には午前の通常授業に加えて、午後も英語学習の子どもたちが集い、午後2時~4時の小学校高学年クラス、午後5時半~7時半の中学生クラスと、一日中賑やかな声が響いています。学校教育課程のみでは、コミュニケーションのできる英語を身に付けることはなかなか困難な状況です。国際的な観光都市・シェムリアップ近郊に住む彼らにとって、将来の就労には英語の習得が必要です。英語を通して多国籍の人々と交流し世界観を広げることも大切です。子どもたちの未来に向けてスタートした支援を、郡の教育局と協力しながら進めていきます。



## 「シェアザウインド」からのお願い

2020年度はみなさまのご支援で最初の土入れで田圃を畑に変え、農業事業をスタートさせることができました。引き続きのご支援をお願いすると共に、子どもたちの未来に向けた活動を広めてください!!

### 「心地よい風をみんなでシェア!!」

● Share The Wind は、リエンボン村の活動を一緒に継続支援するサポーターを求めています。

一般/年間5,000円(一口) 学生/年間3,000円(一口)

● 現サポーターの皆様は、2021年度サポーター会費を6月末までに払込をお願いいたします。

● 寄付は一口1,000円から、好きな時に好きな金額で!!

1口5000円でできること

1. 養鶏事業を始めます。自然養鶏で育った雛鳥を、5000円で15羽購入できます。
2. 平飼いの鶏には日陰が必要です。5000円でマンゴーやライムの果樹の苗が20本購入できます。
3. 土入れはまだ必要です。5000円でトラック10台分の土が購入できます。
4. 縫製技術習得事業を始めます。5000円で1ヶ月で使用する5人分の教材用布など購入できます。

● 「シェアザウインド」ゆうちょ口座への払込につきまして

他行よりATMもしくはインターネットバンキング利用で振込まれる場合

店名「〇二八」(ゼロニハチ)もしくは店番「028」を入れ、口座番号「4057842」で払込

ATM口座間振込、ゆうちょダイレクトの場合

記号「10280」を入れ口座番号の末尾に「1」を加え「40578421」で払込

● 初めて振込まれる方は、emailもしくはfbのメッセージで、住所とメールアドレスを「シェアザウインド」までお知らせください。



# シェアザウインド



## 活動報告&事業計画

# 2020-2021



Join Us!

email: share.the.wind2012@gmail.com

http://share-the-wind.sunnyday.jp/

fb: @SharetheWind2012

+855 87 786 913 (カンボジア/内田)

090 9803 2151 (日本窓口/岡本)

## 2020年活動報告

### 農業支援事業

シェアザウインドが目指すのは、子どもたちが家族と一緒に暮らし、安心して学び続けられる環境づくりです。幼い子どもを残して出稼ぎに行かざるを得ない母親たちに、村での就労の場を提供できるよう「農業支援事業」を2020年度から開始しました。皆様からのご寄付をもとに、購入した田んぼに土を入れて畑地とし、大雨による想定外の冠水を経験しながらも、追加の土入れと土壌改良を重ねて、3月にはついに収穫したオクラを村内で販売できるまでになりました。引き続き必要な土入れを行って、より安定した畑地を育てていきます。

#### 〔2020年度の農業支援事業実績〕

20年5月：農業支援事業を開始

6月・7月：灌漑用の池掘り、農地に土入れ(トラック570台)  
浸水・害獣対策の塀を設置

8月・9月：トウモロコシ・なす・きゅうりなどの野菜栽培を開始

10月：連日の大雨により農地全体が冠水

11月：土地に適した作物選定のため、多種の野菜を試験的に栽培

12月：土壌改良のため近隣の農地より、人力で土を追加

21年1月：さらに冠水対策と土壌改良のため土を追加(トラック300台)

トウガラシの栽培開始

2月：販売用のオクラ・サニーレタス・ナスの栽培開始。飼料用空心菜の栽培開始

3月：オクラの販売開始(2日に1度 4~5キロ)\*1キロ50円~80円

クメール地鶏の養鶏場と冠水対策のために土を追加(トラック170台)



オクラの収穫



土入れ



大雨による冠水



市場にて販売

### 農業支援事業のメンバー紹介



**アー** (2018年6月より)  
31歳 / 子ども3人  
(シングルマザー) /  
設備や資材などの  
外部連絡・購入担当



**リー** (2018年6月より)  
28歳 / 子ども1人 /  
野菜販売担当



**ライ** (2019年10月より)  
34歳 / 子ども3人  
(シングルマザー) /  
養鶏担当



**オー** (2019年1月より)  
28歳 / 子ども2人 /  
マネージャー

## 2021年事業計画

### 農業支援事業

「財団法人りそなアジア・オセアニア財団」による「2021年りそな環境助成」に応募、採択されました。交付される助成金をもとに、2021年から有機農業とクメール地鶏の養鶏を合わせた「循環型農業事業」に取り組んでいきます。現在は農地の一角に養鶏用の鶏舎を建設中。次いで平飼いの鶏に日陰をもたらす目的もあり、マンゴーやライムなどの果樹を植樹していきます。鶏舎が1つでき次第、自然養鶏の雛鳥を購入。6月に2つ目の鶏舎ができるまで順次200羽を飼育し、肉鶏や卵の出荷を目指していく予定です。村人は自家用にクメール地鶏を飼育してはいますが、事業としての取り組みにはまた違う側面があります。農業事業メンバーで実際に学び、10月からは村の農家5家庭も加え鶏舎の建設・管理を共有し事業の拡大を目指していきます。コロナウィルスが落ち着きカンボジアへの入国規制が緩和された後は日本から指導者を招き、有機栽培や堆肥・肥料等の基礎を学ぶことになっていますが、それまでは農業事業メンバーや村の農家さんに向けて、日本の専門家の助言をオンラインで求めています。村の生業である農業を発展させ、収入の安定した就労場所をつくることは、子どもたちの学びの環境を整えるため、また村の将来を考えたうえでも非常に大事なことだと感じています。まずはシェアザウインドの農地で、村の農家さんたちと一緒に養鶏や土壌と作物の関係性を学び、改めてさまざまな野菜の栽培技術を習得していきたいと思えます。農業の奥深さに課題が山積みではありますが、将来的には村の農業の改善にもつながる事業として模索を続けています。

※「2021年りそな環境助成」による事業は日本の任意団体「藪の傍」と協働していきます。



### 技術修得支援・縫製事業



カンボジアの女性達にとって、マーケットで美しい布に囲まれミシンを踏む職業は大変身近で魅力的です。村から通えるところの縫製屋に、技術習得を希望する3人のメンバー(それぞれの事情で就学を諦めた女性たち)を派遣し自立支援をしていたのですが、出来上がった服のポケット口のサイズが違っていたり、縫い代の倒し方、芯の貼り方などが理解されていないことがわかりました。縫製の大切な基本をしっかりと習得して欲しいと、シェムリアップにある職業訓練校を当たりましたが、このコロナ禍で閉鎖されていました。そこで、日本の仕事もこなせるレベルを目指し、日本から写真や動画・サンプル、そして寄付された布地などを送りながら指導を行うことに。この企画が「アジア生協協力基金」の助成金申請に通り、この4月より活動を開始することになりました。この助成金で工業用ミシンやタブレットを購入、wifi環境も整えます。新たに2名を加え、最初のメンバー3人はミシンの扱い方など新人指導にも当たります。今年度の終わりには、自分たちでオリジナルのトートバッグをデザインし、型紙を起こし、布を選んで制作できるまでが目標です。いつか皆さまからのオーダーが受けられるように、力を合わせて頑張ります。